

# 高崎・安中地区の果樹産地活性化

計画年度：令和3年～令和5年



西部農業事務所普及指導課

1

## 管内の概要

- ・ 高崎市、安中市の2市
- ・ 管内3 J A（J A高崎、はぐくみ、碓氷安中）
- ・ 全国2位のウメ産地（榛名、箕郷、秋間、松井田）
- ・ 観光直売を主体とした果樹経営（ナシ、モモ、スモモ等）

表1 管内で生産される果樹品目と面積

市町村名	品目	面積 (ha)
高崎市	ウメ	465
	ナシ	114
	モモ	17
	スモモ	20
安中市	ウメ	77



箕郷地域の観梅風景



榛名地域で栽培されるくだもの

2

# 1. 課題設定の背景及び理由

## 【産地の現状】

- ・ 高崎市の榛名南麓は県内有数の観光果樹産地
- ・ ナシ、ウメをメインにモモ、スモモ栽培が盛ん

## 【問題点】

- ・ 高齢化による担い手不足、高齢樹増加による生産性の低下
- ・ 消費者の嗜好変化や気候変動による障害果発生（陥没症等）
- ・ 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」による核果類への被害発生
- ・ 温暖化によるハダニ類等の難防除化
- ・ 新規栽培者等（担い手）の早期技術習得

これらの課題へ対応

## 高崎・安中地区の果樹産地の活性化へ



3

# 2. 支援事項と解決手法

## 【支援事項1】栽培技術向上と品種更新による生産安定

### (1) 改植の推進による生産安定（**高齢樹 → 若木へ**）

関係者連携によるナシ、ウメ等の改植推進

### (2) 難防除害虫の総合防除（**産地の危機回避**）

天敵活用による新たなハダニ類防除技術の推進

クビアカツヤカミキリ防除対策の検討と被害拡散防止対策の実施

### (3) 若手栽培者の技術向上支援（**担い手対策**）

就農10年以内の生産者を対象に、巡回・各種講習会等でサポート

4

## 2. 支援事項と解決手法

### 【支援事項 2】 販路拡大と産地認知度向上に向けた取組

#### (1) ナシ優良品種の導入による果実品質の向上 **(産地魅力度UP)**

関係者で有望品種調査や品種検討を行い改植を推進

#### (2) ウメ「白加賀」の生産安定支援 **(高品質化→市場評価(価格)UP)**

関係者一体となった白加賀「陥没症」対策技術の周知

#### (3) 先進的な取組農家での情報発信と学校連携支援 **(産地認知度UP)**

主力品目ナシ、ウメを活用した加工品開発、産地情報発信によるPR支援

5

## 3. 到達目標（目標年次の姿）

目 標	R2 現状	R3 目標	R4 目標	R5 目標
ナシ、ウメ改植面積累計 (ha)	4.9	6.3	7.3	8.3
天敵導入戸数 (戸)	15	19	23	27
ナシ優良品種導入面積累計 (ha)	1	1	1	1

### 【支援事項 1】 栽培技術向上と品種更新による生産安定

主な活動	R3	R4	R5
(1) 改植の推進による生産安定（改植事業推進）	←	→	→
(2) 難防除害虫の総合防除（クビアカ防除、ハダニ実ほ）	←	→	→
(3) 若手栽培者の技術向上（現地ほ場検討会、研修会）	←	→	→

### 【支援事項 2】 販路拡大と産地認知度向上に向けた取組の推進

主な活動	R3	R4	R5
(1) ナシの優良品種の導入による果実品質の向上	←	→	→
(2) 産地情報発信支援、消費者交流支援（産学官連携）	←	→	→
(3) ナシ、ウメ等活用した加工品開発支援（産学官連携）		←	→

6

## 4. 活動経過及び結果

### 1 栽培技術向上と品種更新による生産安定

#### (1) 果樹経営体支援事業を活用した管内のウメ・ナシ改植推進

##### 活動経過

- ・市、J A、生産部会と連携した事業説明会開催、講習会等での周知
- ・改植・新植ほ場の確認等（植付指導）  
（講習会等による説明会3回、改植・新植ほ場確認4回）

##### 活動結果

- ・事業を活用した振興品種への改植推進により**改植面積が増加**

##### 【成果】ナシ、ウメ改植面積

R3：約0.9ha（ナシ0.1ha、ウメ0.8ha）  
R4：約1.6ha（ナシ0.3ha、ウメ1.3ha）



改植ほ場確認と育苗指導

## 4. 活動経過及び結果

### 1 栽培技術向上と品種更新による生産安定

#### (2) ウメ「白加賀」の生産安定支援

##### 活動経過

- ・白加賀「陥没症」対策技術の周知  
（出荷目揃会2回、ウメPJ会議2回）
- ・ウメPJによる関係機関との連携強化  
（販売対策会議2回）

##### 活動結果

- ・市場からのクレーム減少（高品質化）
- ・J Aとの情報共有で計画出荷に繋がった  
→ **市場からの評価が高まった**

##### 【成果】「白加賀」の品質向上と販売価格UP

#### R2 ぐんま農業新技術

表2 収穫時期、時刻による陥没症発生率

収穫時期	収穫時刻	発生率(%)	気温(℃)	果実表面温度(℃)
早期収穫	6時	6.2	15.7	14.7
	11時	8.0	31.3	31.6
	16時	44.7	31.2	31.3
適期収穫	6時	0.0	20.0	21.7
	11時	0.0	29.5	39.2
	16時	2.7	30.9	35.0

表3 樹齢による陥没症発生率

樹齢	発生率(%)	
	集荷日	集荷日から24時間後
10～30年生	3.7	9.6
若木～30年生	8.0	13.6
50～60年生	22.2	44.4

改植の必要性

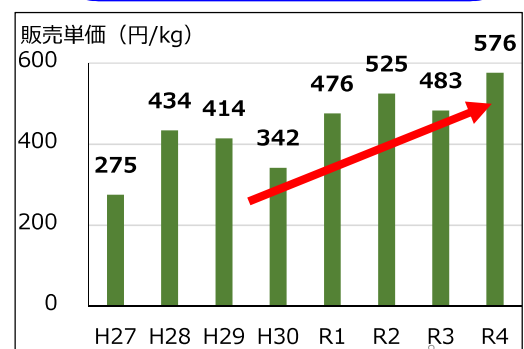


図1 共計生梅の販売単価推移 (H27～R4)

## 4. 活動経過及び結果

### 1 栽培技術向上と品種更新による生産安定

#### (3) 難防除害虫への総合的防除対策(ハダニ、クビアカ)

##### 活動経過

- ・天敵活用による新たなハダニ類防除技術の実証
  - ▶ **実証ほを活用した現地への普及推進**
- ・クビアカ防除検討会（県）、対策実証ほ設置
  - ▶ **講習会、現地研修会等で技術・防除対策を周知**



9名増加  
定着率100%

##### 活動結果

- ・天敵技術の適正使用と導入者増加 R2 : 15名 → R4 : 24名
- ・各種防除講習会で周知 目標(R4) : 4回 → 実績 : 13回
- ・クビアカ実証ほ、対策検討会により、防除対策資料を作成（別紙）

**【成果】 難防除害虫への防除技術向上**

9

## 4. 活動経過及び結果

### 1 栽培技術向上と品種更新による生産安定

#### (4) クビアカツヤカミキリの拡散防止対策 **【緊急】**

2018年1月15日に特定外来生物に指定され、飼育や移動が規制

##### 活動経過

- ・関係者と情報共有、状況確認、防除指導を実施
- ・対策会議の開催、各種広報、ラジオ等で注意喚起

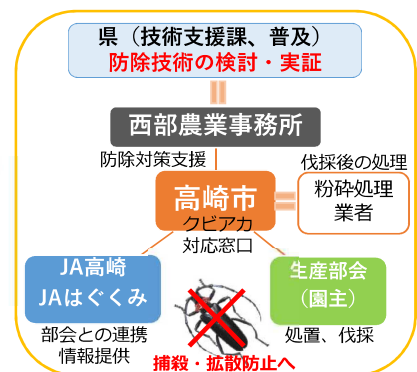


図2 クビアカ拡散防止体制図

##### 活動結果

##### 【関係機関】

- ・上記の体制が構築でき、**迅速な対応が可能**に
- ・捕殺やネット被覆により**クビアカ拡散防止**に繋がった
- ・伐採後の処理を専門粉砕処理業者へ委託する体制を構築

▶ **効率的かつ適切な処理が可能 → 大幅な時間短縮に！**

##### 【生産者】

- ・発生園の生産者へ拡散防止指導 → **自主防衛の意識醸成**



ネットによる拡散防止



委託業者による搬出

## 4. 活動経過及び結果

### 1 栽培技術向上と品種更新による生産安定

#### (5) 若手栽培者の技術向上 (ナシ、ウメ)

##### 活動経過

- ・現地ほ場検討会の開催 1回
- ・ナシ、ウメでの栽培経験の浅い生産者への巡回等実施  
(巡回指導9回、情報資料発信11回)



ウメせん定講習会

##### 活動結果

- ・基礎講習会で基本的なせん定技術（樹体生理、仕立て方等）を習得
- ・マンツーマンの実践指導により、効率的な基礎技術習得に繋がった

**【成果】産地レベルの底上げを達成**

11

## 4. 活動経過及び結果

### 2 販路拡大と産地認知度向上に向けた取組の推進

#### (1) ナシ優良品種の導入による果実品質の向上

##### 活動経過

- ・ナシ優良品種（振興品種）への更新推進（講習会、巡回等）
- ・農技Cと連携した優良品種の検討
- ・県育成有望系統の試食会開催と普及推進
- ・品種アンケート調査の実施（梨研究会）

**検討会 5回、試食会 1回**

	7月		8月		9月			10月	
	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
基幹品種		新水	幸水		豊水		二十世紀		新高
優良品種	はつまる	香麗	なつみず	渾夏	秋麗	あきづき	南水		甘太
県育成有望系統		ナシ1号	ナシ3号		ナシ5号				
		ナシ2号	ナシ4号						

##### 活動結果

- ・ナシ優良品種（振興品種）への更新が促進
- ・県育成有望系統品種への理解と期待が高まった  
(有望1系統は幸水の前でお盆需要にも対応できる青ナシとして期待の声も)

**【成果】優良品種導入促進で産地魅力度UP**



図3 ナシ優良品種導入面積

## 4. 活動経過及び結果

### 2 販路拡大と産地認知度向上に向けた取組の推進

#### (2) 先進的な取組農家での情報発信と学校連携支援

##### 活動経過

- ・やま・さと事業で、大学生によるウメ収穫実習・大学祭ナシ販売PRを支援
- ・学生の収穫実習と生産者の交流により、ウメの栽培課題や魅力を模索  
→ 産地の労働力不足解決へ検討開始
- ・管内2ヶ所のウメ生産者での受入れ体制を調整（説明会4回）



ウメ生産者と学生の意見交換会

##### 活動結果

- ・ウメ収穫実習の受入れ農家数2戸を確保
- ・大学祭（10/22～23）で榛名のナシを消費者へ販売PR
- ・榛名のジャンボ梨コンテスト（11/22）の運営と販売PR

**【成果】 学生目線で産地課題や魅力を発見**

13

## 4. 活動経過及び結果

### 2 販路拡大と産地認知度向上に向けた取組の推進

#### (3) ウメ、ナシを活用した加工品開発とSNSを活用した情報発信

##### 活動経過

- ・R4年にナシを活用した加工品開発を支援
- ・大学祭や西部農業事務所職員を対象に試食、アンケート調査を実施
- ・R5年は県育成ウメ品種「群馬U6号」の加工にもチャレンジ

##### 活動結果

- ・R4年に「ナシの福神漬け」を開発  
→ 大学祭のアンケートで約8割が美味いと評価（100人回答）
- ・加工品や大学祭の情報をSNSで発信

**【成果】 産地の認知度向上**



開発したナシの福神漬け

## 5. 活動成果のまとめ

目 標	R2 現状	R3		R4		R5 目標
		目標	実績	目標	実績	
ナシ、ウメ改植面積累計 (ha)	4.9	6.3	5.8	7.3	7.4	8.3
天敵導入戸数 (戸)	15	19	18	23	24	27
ナシ優良品種導入面積累計 (ha)	1	1	0.4	1	0.7	1

### 〈目標達成の考察〉

- ・ ナシ、ウメの改植を関係者で推進することで、**改植面積を拡大**できた  
→ **R4の目標を達成 (目標7.3ha→実績7.4ha)**
- ・ ナシの天敵導入を講習会や実証ほ等で周知することで**導入戸数が増加**  
→ R2年からR4までに**9名増加、定着率100%**
- ・ ナシ優良品種の検討、周知により**導入面積が増加**  
→ 3カ年累計で1haを目標 (**R4時点で0.7ha**)

15

## 6. 残された課題と今後の対応策

### 【支援事項1】栽培技術向上と品種更新による生産安定

(1) ウメ、ナシ等の高齢樹増加による生産性の低下

→ 果樹経営体支援事業活用による改植推進

(2) 生産者の高齢化による担い手不足

→ 担い手確保に向けた産地体制の充実

(3) クビアカツヤカミキリの被害対策と適正防除技術の習得

→ 関係者と連携したクビアカツヤカミキリの適正防除技術の周知

(4) 新規栽培者の技術向上支援

→ 新規栽培者への講習会、研修会の開催

16



## 6. 残された課題と今後の対応策

### 【支援事項2】販路拡大と産地認知度向上に向けた取組の推進

(1) ナシ優良品種および県育成品種の導入推進

→ 継続した各生産部会への有望品種の周知および試食会の開催

(2) やまさと応縁隊事業を活用した産学官連携の強化

→ ウメ収穫労働力の確保に向けたシステムの構築

動画発信やウメ、ナシ加工品開発を通じた産地PR